

# ICTで校務をDX!

学年 教職員 教科など 校務

## 保護者も学校もWin Win電話連絡削減で働き方改革!

### 使用するアプリケーション等

- ・ Google Forms
- ・ Google スプレッドシート
- ・ WinBird for Gsuite
- ・ Microsoft Word
- ・ Microsoft Excel

DXする題材 高性能! 欠席・遅刻連絡システム

DXのねらい 朝の限られた時間の中での業務量削減及び正確な校内での情報共有を図る

### ICTを活用することでできること

- ・ 朝の電話連絡件数を減少させることで業務量削減ができる。
- ・ どこにいても欠席・遅刻の確認をすることができるようになる。
- ・ 保護者が24時間いつでも欠席・遅刻をすることができるようになる。
- ・ 養護教諭が欠席・遅刻の詳細な理由を把握しやすくなる。

## DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

### 1 従来の欠席・遅刻連絡方法



- ①保護者からの電話に職員室にいる先生が出る。
- ②保護者からの電話内容をメモに取る。
- ③電話後に担任の先生の教室まで移動する。
- ④担任の先生へ電話内容を伝達する。

### 2 問題点

- ①勤務時間前に電話連絡の待機をする必要がある。
- ②電話内容を伝達するために教室まで電話があるたびに移動する必要がある。
- ③欠席・遅刻連絡の電話に出るたびに業務が滞ってしまう。
- ④児童・生徒が欠席・遅刻であることやその理由を担任のみが理解していることがある。
- ⑤電話内容の伝達ミスが発生する可能性がある。
- ⑥欠席・遅刻連絡の内容を伝達時に児童・生徒へ聞こえてしまう可能性がある。
- ⑦伝達内容が記入されたメモ用紙を児童・生徒が見てしまう可能性や紛失の可能性がある。
- ⑧事前に分かっている欠席や遅刻であっても当日の連絡が多い。
- ⑨保護者が朝の忙しい限られた時間に電話連絡をする必要がある。
- ⑩限られた電話回線数を超えて着信すると緊急の電話であっても繋がらなくなってしまう。

## DX後

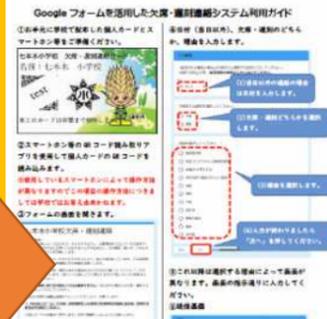
### 1 導入システム

●Google Formsとスプレッドシートを連携させたシステムを導入した。



左はある日の本システムの稼働状況を表している。クラス名の下の数字は左から当日以降の連絡数、当日の遅刻数、当日の欠席数が自動で表示される。クラス名のボタンを押すとそのクラスに在籍している連絡があった児童・生徒の連絡内容のみが表示される。番号順に並び替えや、重複して連絡があった場合にも自動で対応するようになっている。当日以外の連絡は該当の日になると自動で当日の連絡に表示される。電話マークを押すことで電話で受けた内容を簡単にシステムに反映することもできる。

### 2 システムのポイント



- ・ 保護者が個人のQRコードが印刷されたカードを読み取って送信をする。
- ・ 送信するまでには一度もクラスや番号、名前などを入力する場面はない。
- ・ 個人ごとに異なるQRコードを読み取って自動入力されたGoogle Formsに回答することにより個人を特定すると共にデータ入力による揺れを防止している。
- ・ 個人を特定する情報は暗号化された個人とは紐付かない不規則なIDで行い、保護者以外の第三者からの連絡を防止する機能も併せ持つ。
- ・ 未登録のIDから連絡があった場合は自動で警告が表示される。
- ・ 保護者向けの送信方法マニュアルをオンライン配布し、学校HPにも掲載してある。
- ・ 職員健康観察の入力確認画面からも一覧で連絡内容を確認できる。

### 3 問題点の解消

DX前に問題になっていた②～⑩は全て本システムによって解消された。①に関しては本システムの利用率が100%になることにより解消され、更なる働き方改革へと繋がる。

### 4 メンテナンスや年度更新作業

- ・ システムは全て自動化されている。日付が変わるごとに連絡データが自動更新されるため日常のメンテナンス作業の必要はない。
- ・ 卒業するまで同じ個人カードを使用するため毎年カードを発行する必要がない。
- ・ 進級処理はGoogleアカウント管理ソフトのWinbird for Gsuiteでクラス等を変更後Excel出力された情報をそのままスプレッドシートに貼り付けるのみで完了する。
- ・ 個人カード作成はWordの差し込み印刷で印刷ボタンを押すだけで完了する。再発行の個別印刷にも対応している。

### 授業者から (成果・課題・留意点)

導入後約3ヶ月で約500件の連絡を本システムで受けた。1件の受電から伝達までに必要な時間を5分とすると500×5=2500(分)約42時間分の業務削減を行うことができた。保護者も朝の忙しい時間を避けて本システムから連絡を行うことができるようになったり、予め決定している連絡も本システムですて貰えるようにもなったりもした。送信方法のマニュアルを配布してからは以前よりも本システムの利用率が向上し、今ではほとんど朝の時間に欠席・遅刻連絡の電話が鳴ることはなくなった。今まで電話を受けることの多かった教員からは「まさにこれが働き方改革!」との言葉が出た。今後、本システムの利用率100%を目指すことが目標である。